



学校だより

令和 2 年 度 第 2 号
発行日 5 月 1 1 日
練馬区立大泉第二中学校
校 長 関 基 雄

新しい学びに取り組もう

校 長 関 基 雄

新学期が始まり1カ月が経ちました。例年ならば5月の連休が明けて学校生活もいよいよ本格的動き始めるときですが、今年は新型コロナウイルス感染の影響で臨時休業が延長され再開することができず、今月も1回のみ課題受け渡しで登校するだけとなってしまいました。しかし、まだ安心できる状況ではないものの、感染者数も徐々に減少傾向となってきています。これからは日本の社会も再開に向けて準備を心がけていく必要があります。そして、日常生活再開に向けて提唱されているのが、「人と人との間隔はできるだけ2m空ける」、「遊びは屋内よりも屋外を選ぶ」、「会話をする際は可能な限り真正面を避ける」などの「新しい生活様式」です。学校の再開に向けては、この新しい生活様式をどう取り入れていくか考えていかななくてはいけないところですが、再開に向けて私たちが心しなければいけないのは、「これまでの生活に戻る」のではなく「新しい生活スタイルをつくる」という意識に変えていくことです。そして学習においても、ICTの活用が進み、都や区ではオンラインなどの取組計画を前倒していくなどの新しい学習のスタイルに着手し始めています。

さらに大切なことは、学習のスタイルだけでなく学びに対しての考え方も変えていくことです。それは「教えてもらう」から「自ら学ぶ」へ意識を変えていくことです。学習とは新しいことやわからないことなどについて関心や課題意識をもち、自分の力で取り組み、わからないところを先生などに教えてもらうというのが本来の学びのスタイルだったはずですが、これまでにはどれだけ知識をもっているのかという知識の量が重視されていたために、効率よく学習しようと「教えてもらう」ことが優先されていたと思います。しかし、この新型コロナウイルスへの対応を見てわかるように、これからは誰も正解を知らない課題に対応し、解答をみつけていかななくてはなりません。そのためには、「教えてもらったことを覚える」のではなく「学んだことを使って考える」ことが必要になってきます。この休業中の期間、出された課題を「こなす」のではなく、教科書を読んだり、課題を行うことで考えたり、疑問をもったりして「自ら学ぶ」準備をしてほしいと思います。

最後になりましたが、本来であれば、保護者会にて学校経営計画をお示しするところですが、学校再開がまだできていないため、昨年度末に公開する予定でした学校評価報告書と共に学校だよりの紙面にてお示しさせていただきます。まだ、しばらく厳しい状況が続きますがご支援・ご協力をお願いいたします。

令和2年度 学校経営計画

練馬区立大泉第二中学校
校長 関 基 雄

1 本校の教育目標

練馬区教育委員会の教育目標、新学習指導要領に基づき、教職員の日々の創意と努力、保護者や地域の支えにより、長年にわたり営々として築かれてきた学校の特色や伝統を生かして、以下の教育目標の達成を目指すものである。

1. よく考える人になろう
2. 進んで行動する人になろう
3. 責任感の強い人になろう
4. 豊かな心をもった人になろう

2 学校経営ビジョン

変革への準備の年 「大二中だからできる、大二中しかできない学び」へ

- (1) 目指す生徒像「自らの進路を切り拓き、社会に役立つ人になる」
- (2) 目指す学校像「生徒が夢・希望を叶えられる学校」
- (3) 目指す教師像「生徒の力を伸ばせる教師・教師が変われば生徒が変わる」

3 経営の基本方針

(1) よく考える人になるために

- ア 生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識および技能を定着させ学力の向上を図る
- イ 新学習指導要領の趣旨に基づき、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業方法と評価についての研修に取り組むとともに、家庭学習の定着を図る。
- ウ 大泉南小学校・大泉第二小学校と連携し、小中一貫教育実践校としての9年間を見通した指導方針の下で行う学習指導・生活指導の更なる充実を図る。

(2) 進んで行動する人になるために

- エ 道徳教育で身に付けた道徳性を生かし、自ら進んで活動できるように奉仕的な活動の機会の充実を図り、自己有用感や自尊感情を高めていく。
- オ 健康や体力に関心を持ち、すすんで体力の向上や健康維持に取り組むとともに、規則正しい生活習慣や食育指導により適切な食習慣を主体的に身に付ける態度を育てる。

(2) 責任感の強い人になるために

- カ 学校行事や部活動に積極的に取り組ませ、生徒の個性や能力を発揮させる場の提供を維持する。また、学校行事等に主体的に取り組むことで、相互に支え合い高め合う集団を意識させ、所属感や責任感を育てる。
- キ 将来の夢、希望をもち何事にも意欲的に取り組んでいけるように様々な体験活動を通したキャリア教育の充実、体系化を図る。

(3) 豊かな心をもった人になるために

- ク 学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神を育成するとともに、あらゆる差別や偏見をなくすために人権教育および豊かな心の育成を図る。特に、道徳教育を充実させ、自他の生命を尊重する心や規範意識を育む指導を推進する。また、特別の教科道徳における指導方法を工夫し計画的、継続的実践を積み重ね、道徳教育の要として補充・深化・統合を図る。

- ケ 教育相談を充実させ、「いじめ・不登校」の早期発見・早期対応に努め、家庭との連携を密にしながら信頼関係を構築するとともに、積極的に他の相談機関との連携を図る。
- コ 巡回教員や特別支援教育専門員、関係機関との連携を強め、校内特別支援委員会を中心として特別支援教育の更なる充実を図る。

(4) 教育目標を達成するためのその他の方針

- サ 学校公開日や保護者会、学校行事等を工夫、改善し、地域・保護者との信頼と協力関係を築くとともに防災教育をはじめとして地域の力を活用した教育活動に努める。また、ホームページなどで情報の発信を行い、学校評価・学校関係者評価を十分に活用して実態把握と課題の改善に努め、開かれた学校づくりを推進する。

- シ 本校の課題として1学期に学校としてのまとまりを作る行事がなく、2学期から3学期にかけて行事が集中しているという課題があった。そのため、ここ数年をかけ検討を重ねてきたカリキュラムの改編を次年度に取り組むための準備を行っていく。

4 経営の重点

「本校の強みを生かし、生徒の利益を第一に考えた教育に取り組む。」

本校の強みは1、生徒主体の行事の推進 2、多くの部活による意欲的活動 3、落ち着いた学校生活そして何よりも4、教員間のチームワークである。生徒のためになることであれば学校体制で取り組むことができる。こうした力を発揮して以下の課題に取り組む。

魅力ある学校とするために

○学習面の魅力づくり

- ・学力向上
- ・丁寧な進路指導（学校体制での面接指導）
- ・英語学習の充実
- 放課後学習・地域未来塾のさらなる活用

○学校生活での魅力づくり

- ・大二中でよかったと思える学校生活、行事、部活動の取り組み
- 集団への所属感、自己有用感、自尊感情などが育つ取り組みを
- ・わくわくするような、やってみたいと思うような取り組みをやってみたい
- ・生徒が自分の得意を見つけられるような取り組みにしていきたい

○大二中の魅力の発信

- ・保護者会、説明会の充実
- ・ホームページのさらなる充実
- ・PTAとの連携強化
- ・小学生と保護者に魅力を伝える

5 実践に向けて重点目標と方策

項目	中期的目標	目標に向けた今年度の方策
I 特色ある教育活動 学校運営	① 本校の伝統である「あいさつ」と「歌声」をより根付かせる。 ② 学校行事や部活動を通して、個性を伸ばし、成就感、達成感をもたせ、集団への所属感や責任感を育てる。 ③ 特別支援委員会、特別支援教室の運営を円滑に行い、不登校生徒への対応と特別支援教育の充実を図る。 ④ 地域人材を活用し、より充実した学校教育を推進する。 ⑤ 大泉南小学校、大泉第二小学校との連携教育のさらなる充実を図る。 ⑥ 組織的な学校運営と決裁の迅速化を図り、働き方改革に取り組む。 ⑦ 組織的に職務を遂行するために、OJT を効果的に実践する ⑧ 「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、学校の具体的な対応について生徒、保護者、地域に伝え、安全教育をより一層推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動など取り組みの充実を図る。 ・校歌紹介等の機会を増やす。 ・各取り組みにおいて生徒が主体となった活動を取り入れる。 ・取り組みの後に振り返りやシェアリングを必ず行う。 ・特別支援教室専門員や学校生活支援員と連携して、校内特別支援委員会の充実を図る。 ・マイステップアップルームの活用を図る。 ・チャレンジルームの活用を図る。 ・だれでも相談の取組を充実させる。 ・地域の力を活用して放課後の地域未来塾の充実を図る。 ・クリエイターを中心にさらに充実した連携教育を行い、その活動を積極的に保護者等に伝える取り組みを行う。 ・新学習指導要領を踏まえた課題改善カリキュラムの改訂に取り組む。 ・教員の交流授業をより効果的な取り組みとする。 ・学校徴収金管理システムやスクールサポートスタッフなどを活用し業務の見直しを行っていく。 ・主幹・主任教諭、経営補佐を中心に、若手教員の育成に積極的にあたる。 ・避難訓練のあり方を考え、大きな災害が起きた際の対応を確立していく。
II 学習指導	① 「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。 ② 各教科で授業のねらいを明確にし、「わかる授業」「わからせる授業」を工夫し、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図る。 ③ 生徒の関心や意欲を引き出す授業の工夫を図る。 ④ 家庭学習の充実を図る。 ⑤ 生徒が授業を受けたいと思う特別な教科「道徳」を推進する。 ⑥ カリキュラムマネジメントの核となるように各教科の成果を生かす総合的な学習の時間の学びを推進する。 ⑦ 読解力・表現力を高める工夫を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で2回以上の「深い学び」を目指した取り組みを行う。 ・毎時間ごとに授業のねらいを明確に示し、授業のまとめでねらいが達成できているかを確認する。 ・各教科、学年で家庭学習の取り組みを行う。 ・地域人材を活用して放課後の補充教室等に取り組む。 ・各教室に配備されたICT機器を積極的に活用し、推進を図る。 ・各教科で「学びのススメ」を作成し、家庭学習の方法を示し、家庭学習への取り組みを充実させる。 ・研修の成果を生かした道徳の授業に取り組む。 ・3回の生徒の授業感想をポートフォリオとして評価に活用する。 ・総合の時間の活動の際に、教科の学習の成果を踏まえるような工夫を行う。 ・各単元に読解・表現する活動を取り入れる。

<p>Ⅲ 生活指導</p> <p>進路指導</p>	<p>① 生徒と向き合い、寄り添う生活指導の充実を図る。</p> <p>② 各学年の生徒の実態に応じ、生徒の規範意識と社会性を高める指導を行う。</p> <p>③ 教育相談を充実させ、「いじめ」の早期発見・早期対応を図り、家庭との連携を強化し、信頼関係を構築するとともに、関係諸機関と連携を図る。</p> <p>④ 生徒に自己理解を深めさせ、将来の目標をもたせ、望ましい職業観をはぐくむキャリア教育を推進する。</p> <p>⑤ 生徒に卒業後の進路を主体的に選択させ、将来の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てる</p>	<p>・学年体制で生活指導に取り組み、個別の場面だけで生徒をとらえずに、寄り添いながら成長を促す働きかけを継続的に行っていく。</p> <p>・教師が率先垂範しながら基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>・定期的にいじめ状況調査を行い、生活指導主任を中心として学校体制で対応に取り組む。</p> <p>・キャリアパスポートを活用した3年間を見通した進路指導体制を確立させ、組織的・計画的な実施を図る。</p> <p>・生徒一人一人と丁寧に面談や面接練習を行い、自己の進路の実現を目指せるように援助をしていく。</p>
<p>Ⅳ 特別活動</p>	<p>① 全ての生徒がどこかで自分の良いところが発揮できる活動を設け、所属感や責任感を高める。</p> <p>② 節電やリサイクルなど環境に配慮した学校生活になるよう取り組む。</p> <p>③ ボランティア活動の充実を図り、地域社会での所属感を高める。</p>	<p>・学校行事、部活動、委員会活動、掛活動など様々な活動の場面を設ける。</p> <p>・生徒の活躍が見られる場面をとらえて何らかの方法で認め励ます取り組みを行う。</p> <p>・牛乳パック回収の活動を円滑に進める。</p> <p>・ボランティア登録名簿を作成し、参加の窓口を広げる。</p>
<p>Ⅴ 研究・研修</p>	<p>① 新学習指導要領の完全実施に向けた準備を行う。</p> <p>② 保護者から信頼を得られる評価・評定を行えるようにする。</p> <p>③ 特別な配慮を要する生徒への支援方法を身に付ける。</p>	<p>・校内研修を行い、指導方法や評価についての理解を深め、年間計画、評価計画の作成を行う。</p> <p>・中学校教育研究会などを活用して研修に努める。</p> <p>・校内特別支援委員会を中心に様々な情報を発信して理解を広めていく。</p>

6 私たちの姿勢.

地域・保護者から信頼されるための教職員の責務

- 1 服務規律の厳守（身分上・職務上ともに問題となる行動がないように）
- 2 校内体制の確認（どんなちいさいことでも報告・連絡・相談を）
- 3 学校事故に対する危機感の徹底（ほとんどの事故は学校（教員）の不注意による）
- 4 保護者・地域への対応（生徒の後ろには保護者が、保護者の周囲には地域の人がいる）
- 5 情報公開への対応（学校で行っている全ての内容（指導）は客観的な説明が必要不可欠）
- 6 生徒の変容を第一に考える。（人を育てることの重要性を自覚する）
- 7 自己の健康管理（ワーク・ライフ・バランスを考える）

令和 2年 3月 3日

令和元年度 練馬区立大泉第二中学校 学校評価報告書

練馬区立大泉第二中学校

校長 関 基 雄

1 自己評価結果

(1) 概要

1 2月に行った保護者、生徒アンケートの分析を行い以下の傾向をつかむことができた。

分析方法

- ① 保護者、生徒アンケートともに「よい」評価の割合+「まあまあ」評価の割合を「肯定的評価」とし、「あまり」評価の割合+「よくない」評価の割合を「否定的評価」とした。「わからない」評価の割合はそのままでの評価として集計した。
- ② 保護者アンケートは過去2年分のデータがあるため、同様に集計して3学年と2学年は学年進行による推移と前年の同学年との比較を行った。その際に5%以上の上昇がみられた場合は3点、5%未満3%以上を2点、3%未満1%以上1点、1%未満マイナス1%未満を0点、マイナス1%以下マイナス3%未満をマイナス1点、マイナス3%以下マイナス5%未満をマイナス2点、マイナス5%以下をマイナス3点として合計を出し、分析を行った。
- ③ 今年度の保護者アンケートを「よい」評価(4点)×人数+「まあまあ」評価(3点)×人数+「あまり」評価(2点)×人数+「よくない」評価(1点)×人数+「わからない」評価(0点)×人数を総人数で割って平均値を出した。
- ④ ③の平均値から23項目すべての平均値を出し、平均値より低いものに黄色い色を付け分析を行った。
- ⑤ 生徒アンケートは保護者アンケート③と同じ作業で平均値を出した。生徒アンケートでは平均でおおむねよいと判断できる3以下のものに黄色い色を付け分析を行った。

1 生徒アンケート読み取れること

成果

「学校の決まりを守る」「朝食を毎日食べる」などは平均値がおおむね3.0を上回っていた。規範意識や規則正しい生活ができて、落ち着いた生活を送っている生徒が多いことが分かった。そのことが落ち着いた学校生活にも結びついていると考えられる。

11 ICT機器は授業をわかりやすくするのに役立っていますか

13 数学の少人数は役に立っていると思いますか

○ともに3.0を超えており成果があったことがわかる。

課題・・・3.0を下回った項目

7 自分に良いところがありますか・・・全学年3.0を下回り、「わからない」の回答が多い。

8 将来の夢や希望を持っていますか・・・全学年3.0を下回る。

○自分の良いところはよくわかっていないそして将来に対して夢、希望が持っていない。

2 学校で友達と会うのは楽しいと思いますかの評価は高いのに1 学校は好きですかの評価が1年生と3年生で低くなっている。

10 学校の授業はわかりやすく楽しいですか

12 先生方はわかりやすくきちんと教えてくれますか

14 先生方はあなたの学力や学習の状況をきちんと評価してくれていますか

15 学校の授業などで自分の考えを他人に説明したり文章に書いたりするのが難しいと思いますか

○学習面での課題がみられる。

- 19 家の人と学校のことを話していますか
- 20 家の手伝いや地域の役に立つことをしていますか
- 21 家庭学習の仕方をわかっていますか
- 22 家庭学習の時間は昨年に比べて増えていますか
- 家庭学習を含めて家庭、地域とのかかわり方に課題がみられる。

2 保護者アンケートから読み取れること

平均を下回った項目

- 3 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、指導している
- 5 学校は震災対策や不審者対策などが行われ、安全や事故防止に十分配慮し、危機管理に努めている
- ⑦ 学校はわかる授業を行い、生徒に基礎学力を付けている
- ⑧ 生徒の興味・関心や意欲を引き出すよう、授業の工夫をしている
- 9 教室の ICT 機器（プロジェクター等）は、授業を分かりやすくするために役立っている
- ⑫ 学校は小中一貫教育の特色や効果が分かるように努めている
- ⑬ 道徳の時間の指導など「心の教育」の充実に力を入れている
- 14 お互いの命や人権を大切にし、生徒に豊かな心を育てようとしている
- 16 生徒に将来の生き方を考えさせ、適切な進路指導を行っている
- 18 生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている
- ⑳ 学校は積極的に家庭と連絡をとり、きめ細かく意思疎通を図っている
- この項目すべてが「わからない」が12%以上となっており、わからないために評価が低くなっていると考えられる。

このなかでも経年評価が高いもの・評価されているもの

- ⑦ 学校はわかる授業を行い、生徒に基礎学力を付けている
- ⑧ 生徒の興味・関心や意欲を引き出すよう、授業の工夫をしている
- ⑫ 学校は小中一貫教育の特色や効果が分かるように努めている
- ⑬ 道徳の時間の指導など「心の教育」の充実に力を入れている
- ⑳ 学校は積極的に家庭と連絡をとり、きめ細かく意思疎通を図っている
- 今年度重点的に取り組んできた項目であり、その点が理解されていることがわかる。

経年評価と評価の平均よりも低いもの

- 3 学校はいじめや不登校などに適切に対応し、指導している
- 5 学校は震災対策や不審者対策などが行われ、安全や事故防止に十分配慮し、危機管理に努めている
- 9 教室の ICT 機器（プロジェクター等）は、授業を分かりやすくするために役立っている
- 14 お互いの命や人権を大切にし、生徒に豊かな心を育てようとしている
- 16 生徒に将来の生き方を考えさせ、適切な進路指導を行っている
- 18 生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている

経年変化で評価が低いもの

- ② 学校の雰囲気明るく、生徒に活気があり、生徒は成就感や達成感を味わって過ごしている
- ⑩ 生徒の学習の成果をわかりやすく伝え評価を適切に行っている
- ⑱ 生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている
- ⑲ 教職員は、愛情と熱意をもち、生徒を大切にした教育活動を行っている
- ⑳ 保護者会や授業参観など、学校を公開し、信頼される学校づくりを目指している

(2) 根拠となる資料（別紙 資料）

- ① 保護者・生徒アンケート推移集計表
- ② 保護者・生徒アンケート分析表

2 学校関係者評価

(1) 総括

① 成果

生徒のアンケートからわかるように概ね生徒たちは落ち着いた学校生活を送れるように学校は取り組んでいる。また、保護者アンケートからは、今年度学校が力を入れて取り組んできた道徳授業の充実や小中一貫教育の推進、新学習指導要領に基づいた授業改善の取り組みなど理解をしてもらうことができたことが成果といえる。

また、他校に先駆け英語スピーキングプレテストに取り組んだり、地域未来塾を開設するなど新たな取り組みを始めたことや、地元の井頭町会と協議を行い大人神輿の担ぎ手を出したことでより地域とのつながりが深くなったこと、さらには特別支援教育や不登校生徒への対応を丁寧に行っていることなどが理解され、ここ数年 160 名程度だった新入生が次年度は 180 名を超えることも大きな成果といえる。

② 課題

生徒アンケートから読み取れる大きな課題は自分の良いところがわからず、将来の夢や目標をもつことができていないことである。さらにアンケート結果を分析しているとその原因の1つに学習面での不安があるのではないかと考えられる。学校の授業だけでなく、家庭学習をどのように取り組んだらよいかわからないため、家庭学習の時間が短いことも見えてきた。

保護者アンケートでは 23 項目中 11 項目も「わからない」と答える比率が全体の 12% を超えており、評価が低くなっていた。学校のホームページの更新を週 2 回程度は行うようにしているがそれでも学校の様々な取り組みが見えづらいところがあるので、工夫をしていきたい。

③改善策

自分の良いところがわからず、将来の夢や目標をもつことができていないことについては学習面で自信がもてるように授業の工夫や家庭学習の充実などに取り組んだり、本校の特色である行事などの取り組みを通して自己肯定感を高めさせたりするなど工夫を行っていく。

また、保護者が学校の様子が理解しにくいということに関しては、これまで以上にホームページや学校だより、学年だよりなどを充実したり、PTA とのより密接な連携を図ることで改善を図っていきたい。また、評価方法を改善したり、項目の検討を図ることも今後考えていきたい。

(2) 根拠となる資料

学校関係者評価資料 別紙参照

3 評価結果の公表等

(1) 3 月の保護者会にて校長より「保護者・生徒アンケート分析表」を資料として説明する予定であったが、全国一斉休校のため保護者会を中止したため次年度第 1 回目の保護者会にてその年の計画とともに説明を行う。

(2) 今年度中に「学校評価報告書」、「保護者・生徒アンケート分析表」をホームページで公開する。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

これまでの本校の学校評価の方法を大きく変え、生徒、保護者のアンケート結果を丁寧に分析することで、成果や課題をより明確にすることができた。まずは学校評価の方法について今後も改善を図りより保護者、生徒の思いを受け止められるようにしていきたい。今年度もいくつも改善を図ることができたと考えているが、学校評価で示された課題を真摯にとらえ、今後も改善を図っていきたい。

令和元年度 保護者学校評価アンケート分析

令和2年2月17日

	学年進行の推移			前年との比較			保護者平均 値以下	わからない 率12%	
	1年→3年	1年→2年	2年	1年	2年	3年			
① 学校は教育方針をわかりやすく伝えている	3	-1	3	3	-1	7	2.66	10%	5%以上
② 学校の雰囲気明るく、生徒に活気があり、生徒は達成感や達成感を味わって過ごしている	-2	-2	-2	3	-3	-6	2.96	6%	5%未満～3%以上
③ 学校ははじめや不登校などに適切に対応し、指導している	0	2	-3	3	0	2	1.89	29%	3%未満～1%以上
④ 学校は保護者や地域の方々と交流し、保護者や地域の願いに応え、開かれている	2	-1	2	2	-2	3	2.57	12%	1%未満～1%未満
⑤ 学校は震災対策や不登校対策などが行われ、安全や事故防止に十分配慮し、危機管理に努めている	0	3	0	3	-3	3	2.49	15%	-1%以上～-3%未満
⑥ 学校内の環境美化・施設改善を積極的に進めている	0	0	0	3	-3	0	2.76	10%	-3%以上～-5%未満
⑦ 学校はわかる授業を行い、生徒に基礎学力を付けている	3	-1	-3	3	3	5	2.51	12%	-5%以上
⑧ 生徒の興味・関心や意欲を引き出すよう、授業の工夫をしている	0	-1	0	3	3	5	2.24	21%	
⑨ 教室のICT機器（プロジェクトアーク等）は、授業を分かりやすくするために役立っている	今年度新たに投入した項目のため比較なし								
⑩ 生徒の学習の成果をわかりやすく伝え評価を適切に行っている	-3	-3	3	3	3	-3	2.66	8%	2以上
⑪ 数学で行っている少人数の授業は、生徒たちの学習に成果があると思う	3			3	2	8	2.8	10%	合計5以上
⑫ 学校は小中一貫教育の特色や効果に分かるように努めている	1	3	3	3	3	13	1.52	36%	-2以下
⑬ 道徳の時間の指導など「心の教育」の充実を入れている	3	3	3	3	3	15	2.31	20%	
⑭ おうちの命や人権を大切に、生徒に豊かな心を育てようとしている	0	0	-2	3	3	4	2.47	15%	
⑮ 挨拶や学校の決まりを守ることなど、生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせている	-3	2	2	3	-3	1	3.1	2%	
⑯ 生徒に将来の生き方を考えさせ、適切な進路指導を行っている	3	0	-3	0	3	3	2.4	16%	
⑰ 体育的な行事や部活動等で子供の体を鍛えようとしている	-2	0	0	3	2	3	3.13	4%	
⑱ 生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている	-3	-2	-3	3	3	-2	2.36	17%	
⑲ 教職員は、愛情と熱意をもち、生徒を大切にされた教育活動を行っている	-1	-3	-3	3	3	-1	2.71	11%	
⑳ 学校は積極的に家庭と連絡をとり、きめ細かく意思疎通を図っている	0	2	0	3	3	8	2.54	12%	
㉑ 学校・学年だよりやホームページなど家庭や地域に積極的に情報を発信している	3	-3	0	2	0	2	3.12	4%	
㉒ 生徒は家庭で学習に取り組んでいる	3	-2	3	2	3	9	2.62	4%	
㉓ 保護者会や授業参観など、学校を公開し、信頼される学校づくりを目指している	3	-2	-1	0	-2	-2	2.92	4%	